

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策		
		評価指標と活動計画	評価				
1 学校運営の充実	(全体レベル) (1) 教職員研修を充実し、意識改革を図るとともに教育観・使命感の確立に努める。 (2) 地域の期待や時代の要請を視野に入れ、教育環境を整備し、特色ある学校づくりに努める。 (3) 教職員相互の協力体制を築き、校内組織が有機的に機能する学校運営を推進する。  (詳細レベル) ①教職員研修の充実 ②本校教育への理解と関心を高めるための積極的な働きかけ ③教職員間の協力体制の強化 ④学校行事の公開	評価指標 ①職員研修会の実施回数 6回(6回) ②-1 体験学習の参加者数 600名(677名予定) 体験入部の参加者数 400名(439名予定) ②-2 PTA総会・学年部会への参加率 30%(28.3%) PTA清掃活動を実施年1回(1回) ②-3 学校ホームページの更新回数 およびアクセス数 250回(243回) 80,000アクセス (70,055アクセス) ②-4 マスコミなどによる学校活動の広報 350回(343回) ③職員間協力度 90%(98%) ④-1 学校行事の新聞掲載回数 15回(14回) ④-2 文化祭来場者 1000名(1254名) ⑤-1 各種ボランティア活動参加 300名(310名) ⑤-2 清掃活動参加 (地域や校内を含む) 2,000名(2,010名)	評価指標の達成度 ①職員研修会の実施回数 10回 ②-1 体験学習の参加者数 345名 体験入部の参加者数 281名 ②-2 PTA総会・学年部会への参加率 25% PTA清掃活動を生徒合同296名で 8月21日実施。 ②-3 学校ホームページの更新回数 およびアクセス数 334回 122,723アクセス ②-4 マスコミなどによる学校活動の広報 412回 ③職員間協力度 100% ④-1 学校行事の新聞掲載回数 15回 ④-2 文化祭来場者 1023名 ⑤-1 各種ボランティア活動参加 320名 ⑤-2 清掃活動参加 (地域や校内を含む) 2050名	評定 A D B A A A A	総合評価 B (所見) ①従来のコンプライアンス研修や人権研修、教育相談研修の充実に加えて、新たに交通安全講習会も取り入れることで、研修内容が豊かになった。また、生徒の高度な資格取得に対応するため、本年度も日商簿記1級の研修や、SPH関連の発表会へ参加することにより自己研鑽に努めた。 ②-1 体験学習を8月上旬に設定し、体験入部と日を分けたため、他校との重なりもあり参加人数が減少した。しかし例年隘路となっていた駐車場問題が解決されたことや本校を第1志望とする中学生の参加が増えたかと思われる良い面もあった。来年度も同様に行いたいと考えている。 ②-2 PTA総会への参加を促すため、ホームページの活用や事前の広報に努めたい。清掃活動や徳商祭への保護者参加は活発だった。 ②-3 職員間で学校ホームページの更新が定着してきている。また、学校での出来事も定期的にアップされ、アクセス数は大幅に伸びている。 ②-4 学校活動は活発であり、広報も充実している。 ③教職員が協力し、教科指導や生徒指導、学校行事等スムーズに実施できている。また、カンボジアとの交流については、現地での工場建設が始まるなど着実に成果を上げている。昨年度から連携の始まった沖縄水産高校とは、本校の学校設定科目である「観光ビジネス」やSPHの分野で研究を深めることができた。 ④-1 SPH指定2年目ということもあり、多くの記事が紹介された。徳島での掲載だけでなく、沖縄やカンボジアでも紹介されたことは、多くの人に本校をアピールする良い機会となった。 ④-2, ⑤ 文化祭来場者、各種ボランティア活動参加数、清掃活動参加数、全てにおいて目標数を上回ることができた。	① 教職員の資質向上を目指し地道な取り組みが実施できている。今後とも継続してほしい。  ②-1 専門高校であるため、中学生にとっては学校の内容を知る絶好の機会である。ぜひとも検討していただきたい。  ②-2 引き続き、案内文書は、生徒に配布し家庭へ持ち帰るよう指導する必要がある。来年度も引き続き、入学式における案内文書を配布し、総会への参加率アップに繋げたい。  ③ アンケート調査をもとにした職員間協力度は、高い数値で目標を達成できている。今後ともこの協力体制を維持してもらいたい。  ④, ⑤ 今後とも継続して取り組んでほしい。	① 今年度取り組んでいる研修を継続するとともに、これからの教師に求められる資質・能力を見極めたうえで、適切な研修を実施する。また好ましい教育活動として収集した事例等の紹介も適宜行う。 来年度は、SPH指定事業の最終年度である。研修を十分活かした研究成果を上げられるよう努めたい。  ②-1 市内の専門校との日程調整を行い、参加人数の増加を図りたい。  ②-2 引き続き、案内文書は、生徒に配布し家庭へ持ち帰るよう指導する必要がある。来年度も引き続き、入学式における案内文書を配布し、総会への参加率アップに繋げたい。  ③ 学校の重点目標を実現していくために、校務分掌や各学年に計画力と実行力のある主任を置き、協働的な組織体となるよう今後とも努力する。  ④ 専門高校としての特色ある学校祭を目指し、さらなる工夫・改善を図っていききたい。
		活動計画 ①各学期毎に職員の研修会を実施し職員の資質向上を図る。 ②-1 早めに中学校へ周知し、積極的な参加を呼びかける。 ②-2 PTA総会の日程や学年部会の内容の充実を図る。各種案内が確実に保護者に届くようにする。 ②-3 ホームページシステムの積極的な利用や広報に努める。 ②-4 ホームページ、マスコミなどを活用し学校の情報を積極的に広報する。 ③ ホウ・レン・ソウを徹底するとともに課単位によるミーティングを行い、業務遂行のための共通理解を深める。 ④-1 学校行事の取組を積極的にマスコミなどにプレスリリースする。 ④-2 文化祭の公開を実施し地域や他校生・中学生との交流を図る。ホームページ等で積極的に情報を発信する。 ⑤-1 地域が元気になる活動、各種ボランティア活動に積極的に取り組む。 ⑤-2 環境問題に興味関心を持たせるとともに、自主的に清掃活動を実施させ、物心両面からの美化活動に努める。	活動計画の実施状況 ① 教育委員会からのWebによるコンプライアンス研修及び人権研修をはじめ、外部講師を招き教育相談研修、交通安全講習会を実施することにより、職員の資質向上を図った。 ②-1 早めに中学校へ周知し、積極的な参加を呼びかけた。残念ながら、他の学校と重なったこともあり、昨年よりも参加人数は減った。 ②-2 入学式でPTA総会の日程を文書で配布して案内した。ドイツ交流校生徒のホームステイ受け入れでは、6家庭の協力を得た。 ②-3 ホームページシステムの積極的な利用、広報に努めることができた。先生方も更新回数が増加してきている。 ②-4 ホームページ、マスコミなどを活用し学校の情報を積極的に広報を行っている。 ③各課とも、必要に応じて勤務時間外であってもミーティングを実施し、業務遂行のための共通理解を深めた。 ④-1 学校行事の取組を積極的にマスコミなどにプレスリリースした。全てが取材対象にはならなかったが、概ね取材いただけた。 ④-2 モバイルサイトを始めた生徒の口コミを含め、積極的な情報提供の成果から、地域や他校生・中学生との交流を図れた。 ⑤-1 ほぼ予定通り取り組めた。 ⑤-2 保健を始め授業の中で環境問題について学習し、生徒集会においても学んだ。興味や関心を持たせる事ができた。少しずつではあるがその意識も高まってきているように思う。				

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評価		
2 学習指導の改善	(全体レベル) (1) 生きる力を育むため、基礎・基本の確実な定着を図り自己教育力を高める。 (2) 確かな学力の育成を目指し、学習内容の厳選・創造及び指導方法の工夫・改善を行う。 (3) 個性の伸長を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストへの道を拓く。  (詳細レベル) ①授業時数の確保 ②授業技術の向上 ③各種資格取得の奨励 ④自己学習力の育成 ⑤実際の・体験的な学習の充実・発展	<b>評価指標</b> ①自習率 1%以下 (0.4%) ②授業満足度 80% (65%) ③-1 全商検定3種目以上1級合格者 70名 (89名) ③-2 技能奨励賞 80名 (97名) ③-3 日商簿記検定2級合格 20名 (22名) ③-4 基本情報技術者試験合格 3名 (1名) ③-5 ITパスポート試験合格 5名 (8名)	<b>評価指標の達成度</b> ①自習率 0.2% ②授業満足度 80% ③-1 全商検定3種目以上1級合格者 46名 ③-2 技能奨励賞 57名 ③-3 日商簿記検定2級合格 14名 ③-4 基本情報技術者試験合格 1名 ③-5 ITパスポート試験合格 3名	① A ② A ③-1 D ③-2 C ③-3 C ③-4 E ③-5 D	(所見) ①可能な限り授業振り替えを実施することで、近年の自習率は極めて低い数値に収まっている。しかし一方で体調を崩した教員の存在があり、何らかの改善の必要がある。  ②若干の改善は見られるものの、平日の自宅学習時間が0の生徒が、全体の3割を占める状況にある。引き続き、授業への取り組み姿勢の改善を通して、授業内容の理解を促進し、授業満足度向上へとつなげたい。  ③早朝補習や検定前1週間に放課後補習等を実施し検定の合格者増に計画的に取り組んだ。全商検定の3種目以上合格者数は昨年度の過去最高からは激減したが、全商商業経済検定において全科目合格者をだすことができた。日商簿記や情報処理関連の高度資格については目標に達することはできなかったが、情報セキュリティマネジメント試験に合格者をだすことができた。今後各種資格の取得に向かって、計画的に学習する環境の整備が望まれる。	① 自習率0.2%という数値はすばらしい。先生方の努力に感謝する。  ② 生徒の実態に合った分かりやすい授業を展開できるよう、工夫・改善を図っていく。  ③ 商資格取得は、商業高校の生徒達にとって大きな目標の1つであると思う。今後ともきめ細かな指導を心掛け資格取得者数の増加を目指し頑張っていたきたい。
		④-1 図書館利用者数 7,000名 (6,949名) ④-2 一人あたり貸出冊数 3.3冊 (2.9冊) ④-3 図書館通信の発行回数 12回 (12回)	④-1 図書館利用者数 5,001名 ④-2 一人あたり貸出冊数 2.2冊 ④-3 図書館通信の発行回数 10回  ・新着案内図書の冊数 351冊 ・寄贈図書 74冊 (以上1/25現在)	C		
		<b>活動計画</b> ① 学校行事の精選を行うほか可能な限り振り替えを行い、授業時数を確保する。 ② 「学力向上」の実現のため生徒の実態にあった指導及び工夫改善を行う。 ③ 通常・検定前補習を充実させるほか個人指導を効果的に実施。 ④-1 図書館通信(推薦図書や新着図書の案内)を充実し、図書委員によりホームルームでの広報を行う。 ④-2 図書館通信をホームページに掲載する。月1回新刊図書案内を昼TCS放送で放送してもらう。 ④-3 ビブリオバトル・図書館祭を開催する。読書啓発ポスター等を充実させる。	<b>活動計画の実施状況</b> ① SPH研究指定の2年目となり、教員の長期出張等による授業振り替えが例年以上に多い状況となっている。限られた時間枠のなかではあるが、可能な限り授業振り替えを実施した。 ② 昨年度の結果をふまえ、職員それぞれが授業進度・指導方法の改善に努め、目標値を達成することができた。 ③ 早朝補習を計画的に実施し、簿記検定前1週間に放課後1時間程度の補習を実施することにより、検定に合格する対策を図った。3年時における就職試験及び入試への対策については個別指導による対応を行った。  ④-1 「図書館通信」は1月まで10回発行。 ④-2 徳島商業HPに4月～1月の10回分「図書館通信」を掲載。TCS番組で「ビブリオバトル」の結果を放送。 ④-3 「ビブリオバトル」は6/22に実施。「図書館祭」は10/31～11/14開催。本年度のテーマは「大人になるということ」で、主権者教育との関連を図った	④昨年度に比べて、図書館利用者数や一人当たりの貸出冊数が1月末現在で大きく下回っている。1年生の「朝読」の取り組み及び、各教科との連携を図り、図書館の利用を啓発していく必要がある。また、「ビブリオバトル」や「図書館祭」などの活動が一過性のものとならないために、年間複数回実施する必要も感じる。	④ 利用者数減は、図書室の位置に問題があるのではないかと。空き教室があれば、図書コーナー的な部屋を本館の方に設けてみてはどうか。また、ポイント券などを発行し、利用者数増に繋げられないか。	

		<p>⑤-1 地域社会や企業等と連携した教育活動の実施          ⑤-2 ビジネスアイデアコンテストへの参加          課題研究における活動の実施。企業との連携による学習活動の実施          ⑤-3 地域企業との連携による商品開発の企画及び実施</p>	<p>⑤-1 校外徳商デパートを実施し商業高校生としてのプロデュース力をアピールした。ビジネス研究部の校内模擬会社ComComを中心に、地域や企業と連携した活動を積極的に展開した。徳島県高校生産業教育展や全国産業教育フェア石川大会に参加し、地域社会や企業等と連携した教育活動を積極的に広報した。          (展開活動)          ・牟岐町との連携          ・JICA・徳島県連携事業          ・地元企業Webページ作成支援          ・被災地支援          ・農工商連携6次産業化プロデュース事業          ・徳島県中小企業団体青年中央会提携事業          ・スタジアム学園祭          ・商品開発          ・ボランティア活動(インターアクト)          ⑤-2 ビジネスアイデアコンテストへ1チーム参加し、地域企業から提示された読書離れに歯止めをかける方策についてのビジネスアイデアを発表し、優秀賞及び徳島県中小企業家同友会賞に輝いた。          ⑤-3 地域企業と連携し、カンボジアの高校生と商品開発に取り組んだ。11月に実施した徳商デパートでは、カンボジアの高校生とともに販売活動に尽力した。          (開発した商品)          ・女川カレーパン          ・鬼まんじゅう          ・鶏肉と豆腐のつくね          ・沖縄の塩、紅芋、黒糖味シュークリーム          ・大神実命          ・三種の果実 等</p>	<p>⑤-1 校外徳商デパートについて、昨年度から担当する生徒のクラスを増やし、できるだけ多くの生徒に地元企業との連携を体験させ、地域に貢献する実践力を養うことに繋げている。企業関係者と交渉する能力は、校外徳商デパートを通じて確実に向上している。          ⑤-2,3 全国産業教育フェアや徳島県高校生産業教育展等に積極的に参加し、本校が取り組んでいる多くの教育活動を広報することができた。</p>	<p>⑤ 実際の・体験的な学習については、大変良く頑張っている。マスメディアにも頻繁に取り上げられており、活発に活動できている。今後とも、継続して取り組んでほしい。</p>	<p>⑤ SPH事業によるホームページ支援活動や徳商デパートによる商品開発、農工商連携による6次産業化プロデュース事業による商品開発活動を活発に展開できている。さらなる工夫・改善を行い商業の専門高校として特色ある学校づくりに努めたい。</p>
--	--	--	---	---	--	---

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

[平成28年度 学力向上実行プラン]

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評価		
学習指導の改善	(全体レベル) (1) 生きる力を育むため、基礎・基本の確実な定着を図り自己教育力を高める。 (2) 確かな学力の育成を目指し、学習内容の厳選・創造及び指導方法の (3) 個性の伸長を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストへの道を拓く  (詳細レベル) ① 授業時数の確保 ② 授業技術の向上 ③ 各種資格取得の奨励 ④ 自己学習力の育成 ⑤ 実際の・体験的な学習の充実・発展	<b>評価指標</b> <b>【全教科共通】</b> ・生徒の主体的、能動的な学びを導く授業を工夫する。 ・ICTや効果的な教授法の導入  (国語) ・課題提出率90%以上 ・漢字検定受検者180人以上 (地歴) ・課題提出率100% ・アクティブラーニングを年2回以上実施 (公民) ・課題提出率100% ・ディベート、アクティブラーニングを年2回以上実施 (数学) ・課題提出率100% ・考査、SPI問題で6割正答 (理科) ・課題提出率90%以上 ・定期考査で得点65%以上 (保健体育) ・救急救命法や妊娠、出産についての講義受講 ・生涯体育につながるよう運動の基本技術を習得する。 (芸術) ・演奏や作品の発表を2回以上行う。 ・発表では自己評価、相互評価を取り入れる。 (英語) ・課題提出率85%以上 ・全商英検3級合格80% 1, 2級合格15%以上 (家庭) ・課題提出100% ・各種料理コンクールに参加2回以上	<b>評価指標の達成度</b> <b>【全教科共通】</b> ・各教科で学びをアクティブ化するためグループ学習や調べ学習、ディベート等を導入する試みを実施。 ・ICTで画像資料を活用したり、PCやスマホを利用した取組みを導入。(国語) 課題提出率は96%、作品応募はほぼ100%・漢字検定2回の受検者は181名。 (地歴) ノート等課題の提出率は約96%・アクティブラーニングを試みたが効果が上がらなかった。地歴のA科目での実施は厳しい。 (公民) 課題提出率99%・アクティブラーニング等実施したが期待する成果は得られなかった。 (数学) 課題提出率は90~100%・SPI問題では4~5割の正答率であった。 (理科) 課題提出率90%以上。定期考査の得点率ではクラス間で差があり60~65%内で推移した。 (保健体育) 救急救命法及び妊娠出産についての講義を実施。・運動の基本技術を習得することができた。 (芸術) 演奏や作品発表を各学期2回行い、学期末には自己評価を取り入れることができた。 (英語) 課題提出率は85%を越えた。 ・全商英検3級合格率87%。1,2級合格率は15%には至らなかった。 (家庭) 課題提出は2,3年生とも100%	評定 B C B B B B B A B B A	<b>総合評価</b> B (「所見」) <b>【全教科共通】</b> ・学習にICTやアクティブラーニング等を導入する取組みは各教科でなされているが、まだ試行の段階である。本校の実態に即した効果的な方法を各教科を軸に検討する必要がある。 (国語) 提出物等は決められた通り出せても、生徒自身の真剣な学びに結びついてこないことが問題。個性の伸長も必要だが、基礎学力の不足が懸念される。 (地歴) 自ら調べ考察したことを発表することができるよう知識や学力の定着を図り今後のアクティブラーニングの実践に結びつける。 (公民) 課題提出率はほぼ100%だが、ディベート・アクティブラーニングについては、準備不足で成果を上げることができなかった。 (数学) 課題提出率のHR間のばらつきをなくし、SPI問題を長期休業中の課題にしたり、実力テスト前に授業で取り上げたりして正答率の上昇につなげたい。 (理科) ワークシートの活用で内容の定着と共に教員の解説時間の確保ができた。ワークシートの共有化で考査問題の精選に役立てたい (保健体育) 救命救急法について講義を受け学んだが、いざ救命患者に直接携わったときに、正しい行動がとれるかどうか、実践力が懸念される。 (芸術) 演奏や作品発表は授業への動機付けになった。自己評価を次にどのようにつなげていくかが、今後の課題である。 (英語) 課題は授業への動機付けになり、効果的である。全商英検は上級受検者への指導が今後の課題である。 (家庭) 県の野菜たっぷりレシピコンクールにおいて2名が入賞した。各種コンクールへの参加を勧めていきたい。また、来年度は、提出期限が守れるように指導していきたい。また、全員提出と決めた課題については、根気よく指導していく。	各科目毎に記載されている課題を明確に持ち、生徒にとって学習効果上がるよう今後ともお願いしたい。  ・教科会等を通して、課題に対する取り組み状況の情報交換を絶えず行う。また、授業改善を推進し、発展的な学習内容を扱うことにより、生徒が質問したり意見を言うなど主体的に取り組む授業づくりに心掛ける。  ・生徒への学習実態調査から、自宅学習の時間ゼロの生徒が1/3であることが分かった。まずは授業に興味関心を持たせ、集中させることから取り組めるよう、授業改善に取り組む。  ・ICT活用やアクティブラーニング等の導入は、まだ初期の試行錯誤の段階であり成果の実感に乏しい観もあるが、新規に配付されたタブレット端末の活用等も含めて、今後も前向きに取り組む。  ・生徒の基礎学力向上に資する、持続可能な授業方法を工夫する。  ・課題の学習・提出等が基礎学力を培う実体的なものとなるよう設定する。
		<b>活動計画</b> <b>【全教科共通】</b> ・生徒の実態に応じた授業法の工夫と研究授業・公開授業等による研鑽 (国語) ・課題、ノートの点検と評価 ・漢検の受検準備をサポート (地歴) ・課題、ノートの点検と評価 ・生徒が自己表現できるように指導を充実させる。 (公民) ・課題、ノートの点検と評価 ・生徒が自己表現できるように指導を充実させる。 (数学) ・課題、ノートの点検と評価 ・基礎問題の反復と細やかな指導を行う。 (理科) ・課題、ノートの点検と評価 ・生徒の実態把握と、問題の精選 (保健体育) ・救命法については欠席者にも後日指導を徹底。 ・選択種目で自己の課題に応じた取組みを行わせる。 (芸術) ・個々の生徒の段階に応じた指導を行い、サポート。 (英語) ・課題、ノートの点検と評価 ・授業、補習でも検定対策の指導を行う。 (家庭) ・課題の点検と評価 ・コンクールの紹介と指導体制の充実	<b>活動計画の実施状況</b> <b>【全教科共通】</b> ・各教科、講座で様々な授業法の工夫や改善は試みられているが、全体としては相互の情報交換や協議が十分とは言えない。生徒の実態にあった基礎力の定着を図る適切な方法を吟味する必要がある。 (国語) 各種提出物は評価対象として点検することを習慣づけている。・広報と模擬問題の配付をこまめに実施。今年度は検定は2回。 (地歴) 机間指導やノート点検を通して個々の生徒の学力把握とアドバイスを行った。 (公民) 定期的にノートチェックを行い、生徒の理解度や考えを知ることができた。 (数学) 課題・ノートの点検は定期テストごとに行った。基礎問題の反復は各授業や朝の小テストを通して実施、指導した。 (理科) 課題は定期考査ごとに回収・点検。 ・教科会で内容の取扱い方や考査問題の精選を行った。 (保健体育) 救命法講義欠席者には、後日指導を行った。・種目の選択により、それぞれの課題に応じた取組みを行わせた。 (芸術) 演奏課題、作品の点検と評価及び、個々の生徒の段階に応じた指導を行いサポートすることができた。 (英語) 授業での提出課題等を点検し、評価した。・早朝補習(2,3年生)、授業(1年生)で問題集等を活用し、英検対策を行った。 (家庭) 各種コンクールへの応募を呼びかけ授業と実践が結びつくようにした。			

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満~70%以上達成 D：70%未満~60%以上達成 E：60%未満達成

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価				学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評価	総合評価		
3人権教育の徹底	(全体レベル) (1) 人権尊重を基盤とする普遍的な視点をすべての学校教育活動に位置づけた人権教育を推進する。 (2) これまでの成果を踏まえ、具体的な人権課題に即した個別的・普遍的なアプローチによって人権尊重の理念を深めるとともに、課題解決に向けた実践的な意欲や態度を培う。 (3) 学校、家庭及び地域社会と連携を図り、生徒の自主的活動を支援する中で、人権意識の高揚と人権問題を解決する実践力を養う。  (詳細レベル) ①教職員の人権意識の高揚を図る研修の充実 ②生徒の主体的な活動を促すホームルーム活動の創造 ③生徒の自主活動の活性化	<b>評価指標</b> ①-1 教職員人権研修の実施回数 3回(3回) ①-2 校内公開人権学習の実施回数 3回(3回)	<b>評価指標の達成度</b> ①-1 教職員人権研修の実施回数 3回 ①-2 校内公開人権学習の実施回数 3回	A	A	(所見) ①徳島県内で行われた高人権大会や県人権大会に多くの教職員が参加、研修を行った。また、校内では人権公開学習を学年ごとに実施した。  ②今年度障害者差別解消法がスタートしたことを伝え、まず障害者に関する様々なマークを提示し認識させる。  ③-1 人権部部員が、中部ブロック生徒部会に継続参加し、12月の人権交流集会では、スタッフとして有意義な活動が展開できた  ③-3 女川小学校との交流は震災後継続的に行っている「さざなみ太鼓のユニフォームTシャツプレゼント」の他、修学旅行時の交流、共同商品開発などを通じて活発になっている。今年度は、徳商デパートにおいて「女川カレーパン」を販売することができた。また、復興都市から観光を学ぶことでこれからの徳島の観光にも生かしていくことができる。	①HR活動などを使用し、十分に組み組めている。今後とも継続してほしい。  ②来年度は、「障害者差別解消法」について、HR活動を通して深めていきたい。  ③生徒主体の活動による人権教育は大変効果的だと感じている。朝のSHR時など利用して、クラス内での発表をしていきたい。  ③現在、人権部(PEACH)の活動部員数が少ないため、校外活動への参加が厳しい。積極的な勧誘を行い、部員数の増加を図れるかどうか今後の課題である。
		<b>活動計画</b> ①-1 全教職員の人権意識高揚に向けた研修会の実施  ①-2 授業づくりや教職員の人権感覚を高揚させるための人権関係の資料の作成 ②授業研究を深めるための公開人権ホームルームの実施および事後の研究協議の実施。  ③-1 校外で行われる中高生による人権研修への積極的な参加促進  ③-2 PEACH部員による全校生徒への研修報告の実施  ③-3 女川小学校支援の積極的参加と支援活動報告	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 11月4日(金) いじめに関する講演会 1月13日(金) 食育・人権講演会 実施・・・全職員・生徒対象 ①-2 2月実施予定(障害者に関するマークについての認識と理解を人権部・人権委員から全クラスへ発信:朝SHR時)  ② 全学年事前授業 及び 研究協議実施  ③-1 「中高生による人権交流事業」 中部ブロック第1,2回生徒部会に参加 ③-2 ③-1と合わせて実施  ③-3 女川小学校児童との交流会(6月) (神戸 アシックス研修施設) 女川小学校児童徳島招待キャンプ(8月) (驚敷 野外活動センター) 女川小学校訪問交流会(10月) (宮城県 女川小学校)	B			

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
4 生徒指導の徹底	(全体レベル) (1)全教職員の共通理解のもとに、家庭との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。 (2)基本的生活習慣を確立させ、道徳・規範意識を高め、責任を重んじる態度の育成に努める。 (3)部活動を奨励し、連帯感や愛校心を培い、社会人として望ましい資質・態度を育成する。  (詳細レベル) ①商業高校生としての美しい振る舞いの育成 ②基本的生活習慣の確立 ③規範意識と道徳的考え方を深化させ、いじめのない豊かな人間関係を醸成。 ④部活動を通じた人中心の調和のとれた生徒の育成及びあらゆる機会でのリーダーシップを発揮できる生徒の育成	<b>評価指標</b> ①-1 生徒指導理解率 教職員 100% (100%) 生徒 95% (100%) ①-2 身だしなみ達成率 100% (100%) ①-3 あいさつ実施率 100% (100%) ②-1 皆勤賞の取得率 50% (46%) 精皆勤賞の取得率 70% (72.5%) ②-2 遅刻率 1%以下 (0.64%) ----- ③校則等の遵守意識率 95% (98%) ----- ④-1 1年生の入部率 100% (100%) ④-2 部活動加入率 90% (92.8%) ④-3 壮行会の開催 4回 (4回) ④-4 体験入部の開催 1回 (1回) ④-5 顧問会議の開催 5回 (5回) ④-6 地域や中学生との交流会の実施 20部活動 (10部活動) ④-7 全国大会・四国大会出場部数 20部活動 (15部活動)	<b>評価指標の達成度</b> ①-1 生徒指導理解率 教職員 100% 生徒 100% ①-2 身だしなみ達成率100% ①-3 あいさつ実施率 96% ----- ②-1 皆勤賞 42% (1月31日現在) 71% (1月31日現在) ②-2 遅刻率 0.4% (1月12日現在) ----- ③校則等の遵守意識率 100% ----- ④-1 1年生の入部率 100% ④-2 活動加入率 93.5% ④-3 壮行会の開催 3回 ④-4 体験入部の開催 1回 ④-5 顧問会議の開催 5回 ④-6 地域や中学生との交流会の実施 19部活動 ④-7 全国大会・四国大会出場部数 22部活動	<b>評価</b> ① A ----- ② B ----- ③ A ----- ④ B	①③ 徳商生の挨拶は、大変すばらしい。卒業式での挨拶・振る舞いが、しっかりと出来ており感謝した。やらせられているのではなく、自然に身に付いている振る舞いと感じた。今後とも指導をよろしく願いたい。  ④ 部活動は大変活発であると思う。全国大会・四国大会出場の数も増加している。今後とも継続して頑張ってもらいたい。	①③ 卒業式や学校祭等の行事の際、来校者から礼儀正しいとお褒めの言葉を数多くいただいた。しかし、今年度も交通マナーの悪さが原因で、外部の方からお叱りの電話を受けている。一部の生徒と考えられるが、学校内外を問わず規範意識の向上を図る必要がある。引き続き、HR活動やSHR時を利用して、人として望ましい振る舞いや行動について考えさせる時間を持つ。また、保護者との連携を図り、個々の生徒に応じたきめ細かい指導を行う。  ② 今後とも皆勤・精勤率の向上に努める。自己の健康管理の重要性を認識させ、絶えず注意を喚起する指導を徹底させたい。  ③ 商業高校生としての自覚を持ち、学校生活のあらゆる機会を通して、社会で通用するような礼節・マナーを身に付けさせる。
		<b>活動計画</b> ①-1 あらゆる機会を通して、美しい振る舞いが社会人として必要な資質であることに気づかせる ①-2 全職員による身だしなみ指導を徹底し、生徒の意識を深化させる。 ①-3 あらゆる場面で、好感の持てるさわやかなあいさつが交わされるように指導する。 ②-1 家庭と連携し基本的生活習慣の育成を促すとともに、登校指導や月間の遅刻回数が2回を上回らないように目標を設定し、時を守ることにに対する意識を高めさせる。 ②-2 遅刻累積の多い生徒に対して、保護者を交えて面談を実施する。 ③ 面談等で生徒の実態を把握し、学年団・各課の連携のもと日常的に指導する。  ④-1 1年生の部活動全員加入を目指す。 ④-2 部活動加入の継続を図る。 ④-3 四国・全国大会に向けて壮行会を開き士気を高める。 ④-4 部員確保のために体験入部や学校紹介、そして各部で練習会や講習会を開催し交流を図る。 ④-5 必要に応じて顧問会議を開催し、各部との連携を図り統一した指導体制の確立を目指す。 ④-6 部活動単位で必要に応じて積極的に地域や中学生との交流会を実施する。 ④-7 四国・全国大会の出場に向けて活動をさらに活性化する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 HR活動や各種の集会をとおして、商業高校に学ぶ生徒としてより良い社会人となるための基本的な考え方について指導し、理解を促した。 ①-2 各学期および学校行事など機会を捉えて全学年の指導を徹底した。 身だしなみ指導実施回数 (6回) ①-3 登下校指導やHRなどをとおしてさわやかな挨拶をかわすよう指導した。  ②-1 保護者への連絡を密にするなど連携を図った。また、少数であるが遅刻を重ねる生徒がおり、家庭と学年主任・担任が今後の対策を協議した。  ②-2 遅刻指導については、月3回以上遅刻した生徒に対し、遅刻指導を行った。次年度に向け各学年主任と効果的な指導方法について協議をしている。  ③ あらゆる教育活動をとおして道徳的な考え方や規範意識を育むよう、指導を重ねた。駐輪場の清掃時や各クラスの指導の場において啓発した。  ④-1 2部に又がり入部している者を含めて、全員加入を果たした。 ④-2 何名かは退部しているが、ほぼ継続できていた。 ④-3 実施できた。 ④-4 台風の影響のため、一部の部活動を除き、実施できた。 ④-5 各部が意見交流をし、指導体制の共通理解を図った。 ④-6 ほとんどの部が地域や中学生との交流を図った。 ④-7 成功している部の指導法を学び、四国・全国大会への出場数の増加に努めている。	② 皆勤・精勤率は、昨年度を上回ることにはできなかったが、遅刻率は大幅に向上し成果を上げた。今後とも校門前指導等を徹底していく。  ③ 学校全体に高い遵守意識が備わっている。今後とも、学年集会・ホームルーム活動・授業・部活動等学校生活のあらゆる機会を通して、集団生活や社会生活を送るために必要な礼節やマナーを身に付けさせる。また、各学年と連携し、生徒の状況把握に努め、啓発活動を定期的に行う必要がある。  ④ 1年生の入部率100%は本年度も達成することが出来た。部活動ごとに中学生との交流会を計画した行ったが、天候不良のため日程的に難しい部活動もあった。		

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	あが	評価指標と活動計画		評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
5 進路指導の充実	<p>(全体レベル)</p> <p>(1)自己の特性を理解させ、自らの在り方・生き方を考えさせる進路指導の充実を図る。</p> <p>(2)望ましい勤労観・職業観を育成し、生徒の希望・能力・適性に合った進路の実現を図る。</p> <p>(3)進路開拓を推進し、進路先の確保に努める。</p> <p>(詳細レベル)</p> <p>①進路指導のガイドライン設定と教職員への周知</p> <p>②進路説明会の開催と進路相談の計画的な実施</p> <p>③進路情報の迅速・確実な提供</p> <p>④個別指導の充実</p> <p>⑤個性・能力の伸長と適切な進路サポート</p> <p>⑥求人獲得と職場開拓</p>	<p>①対教師ガイダンス・研修会実施回数 22回 (21回)</p> <p>②校内進路説明会・相談会実施回数 47回 (46回)</p> <p>③進路資料室の利用クラス 36クラス (35クラス)</p> <p>④進路実現に向けての生徒の達成感 90% (87.4%) 進路決定に対する満足度 96% (95.4%)</p> <p>⑤始業前レッスン実施率 100% (100%)</p> <p>⑥-1 訪問企業数 195社 (192社) 新規求人開拓数 25社 (25社)</p> <p>⑥-2 就職内定率 100% (100%)</p> <p>活動計画</p> <p>①各学年と就職課・進学課との情報交換会を実施 教師対象の進路研修会・勉強会の企画・実施</p> <p>②校内進路説明会・相談会を計画的に実施 外部講師による就職講演会の実施</p> <p>③利用しやすい進路資料室作りの実施 生徒・担任・保護者への迅速かつ正確な情報伝達</p> <p>④進路実現に向けて生徒の意識付けをするガイダンスを実施</p> <p>⑤早朝補習の実施</p> <p>⑥-1 求人獲得とミスマッチ防止を図るための企業訪問を実施</p> <p>⑥-2 進路指導における最重要課題に位置づけ、本校の教育活動の全体を通じて展開</p>	<p>①対教師ガイダンス・研修会実施回数 15回実施</p> <p>②校内進路説明会・相談会実施回数 38回実施</p> <p>③進路資料室の利用クラス 延べ41クラス</p> <p>④進路実現に向けての生徒の達成感 91.1% 進路決定に対する満足度 94.1%</p> <p>⑤始業前レッスン実施率 1学期 実施率100%</p> <p>⑥-1 訪問企業数 168社 新規求人開拓数 6社 会社見学 47社 生徒85名</p> <p>⑥-2 就職内定率 99%</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①3年生担任と就職についての流れと求人の説明・情報交換会を実施した。 3年担任と進学指定校推薦についての説明会を実施した。 就職・進学調査書作成方法の研修会を実施</p> <p>②校内進路ガイダンス・求人説明会・指定校推薦説明会などを15回実施した。 7/13・7/28に就職講演会を実施した。</p> <p>③就職・進学情報誌の配布や校外で実施される進学説明会の案内などをこまめに実施した。</p> <p>④4月～9月の間、週に1回就職・進学に分かれて進路ガイダンスを実施して、意識向上に努めた。</p> <p>⑤6月より早朝補習を実施。1月末まで実施予定</p> <p>⑥5月より就職担当教員企業訪問、現在168社訪問。 生徒の会社見学を47社実施。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①3年生学年団への必要な情報提供および生徒状況の把握と連携は的確に行うことができた。 1・2年生の段階的な進路指導のあり方を今後は強化させる必要がある。</p> <p>②生徒への説明会・相談会はガイダンス行事および授業での進路室利用をさらに充実させたい。</p> <p>③進路室利用は大変増えた。特に2年生の意識向上が顕著であった。</p> <p>④進路実現満足度を上げるために、ミスマッチ防止の事前研究体制をさらに整えること、また、他流されて安易に進路を決めることがないように、目的意識を持たせる教育が必要である。</p> <p>⑤補習を通して、適切な時期に適切な指導を行うことを継続させたい。</p> <p>⑥企業訪問・新規開拓の人員確保に検討の余地がある。生徒の会社見学は、ミスマッチ防止の点において大変有効であった。就職内定については、学校・生徒・保護者・関係諸機関との連携を取りながら、今後も100%を目指したい。</p> <p>入学後からの系統的な進路指導体制のさらなる充実に向けて取り組むことが必要である。進路希望調査と面談の充実や、早期からの進路研究への意識付けを各学年団と連携を取りながら進めたい。</p>	<p>①②③④⑤ 生徒・保護者ともに卒業後の進路については、大変関心が高い。進学・就職ともに生徒の希望が叶えられるよう全力で取り組んでいただきたい。</p> <p>④ 生徒に最新の進路情報を提供することを心掛ける。また、担任・学年主任・進路指導課の連携を強化し、絶えず情報交換を行うことにより、個々の生徒の希望や適性を正確に把握するよう努める。 進学では、能力があっても比較的容易に入学できる入試を受験し、早期に進路決定してしまう傾向がある。生徒の能力に合った適切な情報提供を行うことにより、1ランク上を目指した進学意欲の高揚や学習意欲の向上を今後も図っていく必要がある。</p> <p>⑤ 今年度、部活動と検定取得の両立や指導体制の充実を図る観点から、朝補習を再検討した。生徒が、従来に比べより一層集中して取り組んでおり、今後とも継続していきたい。</p> <p>⑥ 生徒の希望と適性を見極めた適切な進路指導に心掛けたい。</p>	

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価				
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価		
6 情報化・国際化への対応	(全体レベル) (1)施設・設備の充実を図り、情報活用能力と情報モラルの育成を図る。 (2)校務のICT化を推進し、教職員間での情報共有とホームページの充実を図る。 (3)自国の文化を正しく認識し、異文化との相互理解を深め、国際社会に生きる資質を養う。  (詳細レベル) ① ICT環境整備の推進と情報モラルの育成 ② ICTの活用により校務の効率化と情報の共有化 ③ 自国の文化及び異文化への理解	①クリアデスク実施率 90% (85%) セキュリティポリシー遵守率 100%(100%)	①クリアデスク 90% セキュリティポリシー遵守率 100%(100%)	A	A		
		②サーバシステムの利用状況 共有フォルダの利用度 100%(100%) 共有書式の利用度 100%(100%)	②サーバシステムの利用状況 共有フォルダの利用度 100% 共有書式の利用度 100%	A			( 所 見 )
		③国際交流活動回数 65回(60回)	③国際交流活動回数 70回	A			①クリアデスクが十分では教員もいるが、概ねできている。
		活動計画	活動計画の実施状況				
	①-1 情報セキュリティポリシーにのっとり、情報の漏洩防止を図る。  ①-2 校内情報セキュリティの強化に向けたシステムの再構成を企画する。 ①-3 クリアデスク推進日を設け、机上の整理、情報資産の取り扱い向上を図る。 ②-1 職員用サーバを活用し、校務の効率化と情報の共有化を推進する。 ②-2 職員用サーバの効率的運用に向けた再構成を企画する。  ③カンボジア・・・生徒の渡航2回 生徒受入1回 ドイツ・・・生徒受入1回	①-1 情報セキュリティーポリシーを改訂し情報の漏洩防止につながっている。  ①-2 校内情報セキュリティの向上のためパスワードの強化などセキュリティ強化を図っている。  ①-3 クリアデスクの呼びかけを実施し、情報資産の取り扱い向上につながった。 ②-1 職員用サーバの活用は職員全体に浸透してきている。 ②-2 職員用サーバの更なる効率的運用に向けた準備を行っている。  ③カンボジア・・・生徒の渡航2回 生徒受入1回 ドイツ・・・生徒受入1回 アフリカ・・・バスツアー1回 JICA連携・・・徳商デパート2回	②全教員がICTの活用をできている。また、ウイルス発生なども一件もなく、セキュリティを保つことができている。  ③国際交流は、ドイツ・カンボジアともに深まっている。カンボジア交流においては、本校との連携がもとで、学校長や徳島県教育長が現地を訪問し、加工工場 鞆入れ式を実施した。		② 今後ともICTを有効活用することにより、校務の効率化を図っていただきたい。  ③ マスコミでも報道されており、素晴らしい取り組みであると思う。国際化の進展に対応すべく、今後とも宜しくお願ひしたい。		

【備考】評価における「評価」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成



平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策		
		評価指標と活動計画	評価				
7 健康・安全・防災 環境・主権者教育 の推進	(全体レベル) (1)生涯にわたって心身共に健康であるための基礎的な身体作りや食習慣を身につける。(食育) (2)自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。 (3)整理・清掃・整頓・清潔(4S)を徹底して環境美化に努め、奉仕する態度や公共心を養う。 (4)学校版環境ISO認定校として実践を推進し、環境問題への関心を高める。 (5)有権者として、自らの判断で適切に権利を行使できる政治的教養を身につける。  (詳細レベル) ①健康教育の充実 ②安全・防災意識の高揚と実践力の育成 ⑤主権者教育の充実	<b>評価指標</b> ①-1 食に関するアンケート調査 年1回(1回) ①-2 3年生を対象として卒業前に「1人暮らしのための料理講習会」を実施する。 年1回(1回)文化祭のときに食に関する展示を行う。 ①-3保健だよりの発行 12回(10回) ①-4 ホームルーム活動 年1回(1回) ①-5 飲酒・喫煙・薬物乱用防止授業の実施 年1回(1回) ①-6 保健室利用者数(相談対応含む) 年800名(492名) ①-7 心肺蘇生法講習会 1回(1回) ①-8 ライフプラン講演会 1回(1回)	<b>評価指標の達成度</b> ①-1 食に関するアンケート調査 1回 ①-2 3年生を対象として「1人暮らしのための料理講習会」講習会を12月に実施。文化祭のときに食に関する展示を実施し、現代の食と環境問題を考える機会となった。 ①-3 保健だより発行年 12回 ①-4 ホームルーム活動年 年1回 ①-5 薬物乱用防止授業 年1回 ①-6 保健室利用者(相談対応含む) 743名(1/26現在) ①-7 心肺蘇生法講習会 1回 ①-8 ライフプラン講演会 1回	<b>評定</b> A B B A B D	<b>総合評価</b> B (所見) ①-1 食に関するアンケートを実施、アレルギー等の確認を行い、3年生は調理実習等授業に生かし2年生では修学旅行の食事に生かすことができた。 ①-2 3年生16名が集まり、野菜をたくさん使った料理を学んだ。フードデザインを選択している生徒が中心となって環境を考えた持続可能な食生活について展示、啓発を行った。 ①-3~8 生徒が抱える健康課題に対して、関係機関と連携しながら、各種講演会や授業等を実施し、適切に対応した。 ③環境チェックを行うことで教室環境を確認することができ、不備な点を修正することができた。	① 概ね目標値を達成できている。引き続き適切な指導・取り組みをお願いしたい。 ② 災害時に備え、生徒・職員に防災意識を高めることは大変重要である。今後とも継続して取り組んでほしい ③ 清掃が良く行き届いている。引き続き校内美化に向け頑張ってもらいたい。	① 引き続き、きめ細やかな指導を徹底して実施する必要がある。 ② 南海トラフ地震に備えるため、防災意識の高揚と実践力の育成は重要課題である。様々な機会を通して効果的な教育活動を実施する。また、大規模災害対策は、地域全体の組織的な体制作りが必要である。これまで以上に地域関係機関との連携を強化していきたい。 ③④ 毎日の清掃や行事実施による大掃除を徹底して行い、今後とも環境美化に努める。
		<b>活動計画</b> ①-1 生徒の食習慣の実態を把握し食と健康、食に関する自己管理実践能力を育成する。 ①-2 食の自立に関する啓発活動を行う。 ①-3 健康に関する情報発信を行う。(職員生徒への配布及びホームページ掲載) ①-4 生徒の課題である健康問題を取り扱い、生活の改善を図る。 ①-5 1年生で喫煙・飲酒・薬物乱用防止授業を行う。 ①-6 健康・安全に関する意識を高め、けがの予防やメンタルヘルスを保つ取り組みを行う。 ①-7 講習を通じて救命についての意識、実践力を育成する。 ①-8 不妊や不育の問題を踏まえ、ライフプランについての講演会を実施する。 ②防災クラブ(生徒会・家庭クラブ)が中心となり、全校生徒を対象として啓発活動を行う。 ③環境委員が清掃状況チェックを行い、自己評価し改善に生かす。 ④-1 環境委員がゴミ分別状況調査を行う。 ④-2 環境委員会を中心に節電・節水を呼びかける。 ⑤ホームルーム活動や主権者教育に関する資料の配付等により、自らがより良い国家を作り上げる主権者であることを気づかせ意識を深化させる。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 生徒の食習慣の実態を把握し、食に関する自己管理実践能力を育成するように調理実習に生かした。 ①-2 人権教育と食育の合同講演会を行い啓発した。 ①-3 健康に関する情報発信を行った。(職員生徒への配布及びホームページ掲載) ①-4 ホームルーム別には実施せず、11/9に講師を招き、全校生徒を対象に、心の健康教育講演会を実施した。 ①-5 1年生で喫煙・飲酒・薬物乱用 防止授業を行った。 ①-6 保健指導を通して、健康・安全に関する意識を高め、けがの予防やメンタルヘルスを保つ取り組みを行った。 ①-7 1学年を対象とし、2月に保健の授業で実施する。 ①-8 12/2に講師を招き、全学年を対象に、ライフプランについての講演会を実施した。 ②9月1日防災の日に全校生徒を対象に防災アピールを行った。 ③④-1環境委員が清掃状況チェックを行い自己評価し改善に生かす。2学期以降は、毎月行った。 ④-2電気・水道の使用量を教室掲示し節電・節水を呼びかけた。 ⑤ホームルームや全体集会において、主権者意識を高め、副読本やリーフレットで啓発活動を行った。	⑤全学年において、主権者としての意識を高めることに努めたが、年間を通して計画的に進めることができず成果を上げることができなかった。	⑤ 選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことに伴い、どのような教育を学校で行っているか。 ⑤ 有権者として身に付けるべき政治的教養を育むことが、学校に求められている。年間計画を立て、課題を多面的・多角的に考え、自分なりの考えをつくっていく力を身に付けられる機会を多く持つよう検討していく必要がある。		

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成